

日本の株式市場

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。

市場の動向

日本の株式市場の代表的な指数である東証株価指数(TOPIX)は、19日比で0.62%上昇しました。
週初は、前週末の米国株式市場の上昇などを受けて日本株式市場も上昇しました。OPEC(石油輸出国機構)総会への思惑から原油価格は不安定な値動きとなりましたが、株式市場全体への影響は限定的でした。週初に発生した英国での無差別テロ事件を受けてリスク回避の動きから円が買われたことや、週末にG7(先進7カ国)首脳会議の開催を控えポジション調整などの売り圧力に押されたことなどから上昇幅を縮めました。日本株式市場は週間では上昇しました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 31日 鉱工業生産指数(4月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

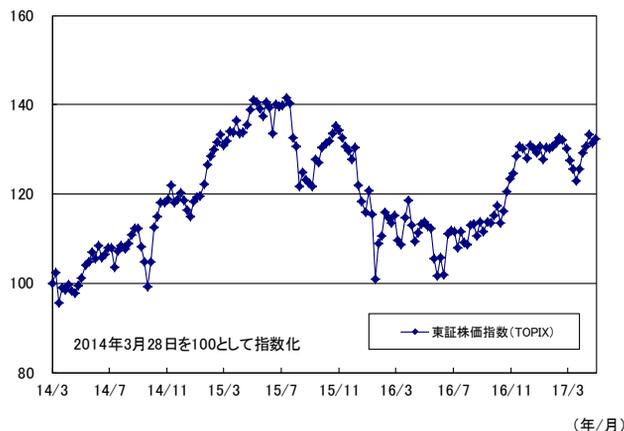
先週の騰落率

0.62%

先週の相場動向



<期間> 2014年3月28日～2017年5月26日



東証株価指数(TOPIX)	2017/5/19	2017/5/26	騰落率
	1,559.73	1,569.42	0.62%

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

東証株価指数(TOPIX)の指数値及びTOPIXの商標は、株式会社東京証券取引所(以下「東証」といいます。)の知的財産であり、株価指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利及びTOPIXの商標に関するすべての権利は東証が有します。

世界の株式市場

市場の動向

世界の株式市場の代表的な指数であるMSCI-KOKUSAI指数は、19日比円ベースで、0.71%上昇しました。
米国株式市場(現地通貨ベース)は、英国でのテロ事件やOPECと主要産油国による原油減産の延長合意が市場予想の範囲内にとどまったことなどが重石となったものの、米大手企業の利益の堅調な伸びや市場予想を上回る欧米の経済指標が下支えとなったことなどから、上昇しました。
欧州株式市場(現地通貨ベース)は、5月のユーロ圏製造業PMI(購買担当者景気指数)や独ifo景況感指数、1-3月期の米GDP(国内総生産、改定値)が市場予想を上回ったことなどから、上昇しました。
アジア(日本を除く)オセアニア株式市場(現地通貨ベース)は、大手格付機関による中国の国債格下げが嫌気されたものの、米国株式市場の上昇などを受け、上昇しました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 31日 ユーロ圏失業率(4月)
- 6月1日 米ISM(サプライマネジメント協会)製造業景況感指数(5月)
- 2日 米雇用統計(5月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

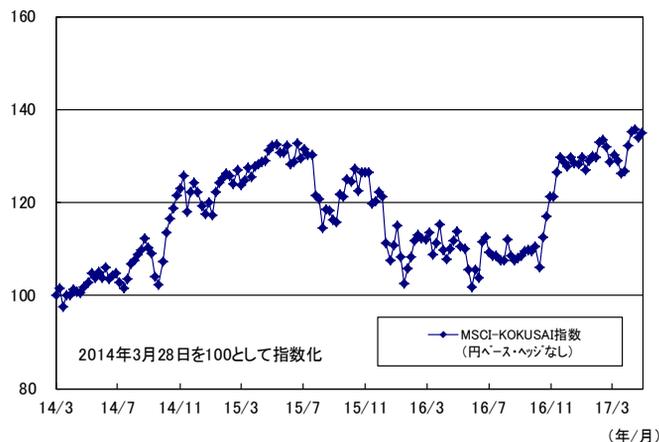
先週の騰落率

0.71%

先週の相場動向



<期間> 2014年3月28日～2017年5月26日



MSCI-KOKUSAI指数 (円ベース・ヘッジなし)	2017/5/19	2017/5/26	騰落率
	2,759.24	2,778.96	0.71%
円/ドル	111.54円	111.25円	-0.26%
円/ユーロ	124.87円	124.42円	-0.36%

<指数出所> FactSetからのデータを基に野村アセットマネジメント作成
<為替出所> 当該日ロンドン時間16時発表のWMOロイターの為替レートを基に野村アセットマネジメント作成

MSCI-KOKUSAI指数は、MSCIが開発した指数であり、同指数に対する著作権、知的財産その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。

日本の債券市場

市場の動向

日本の債券市場の代表的な指数であるNOMURA-BPI総合は、19日比で0.02%上昇しました。

週後半の40年債入札が投資家の慎重な投資姿勢を示す低調な結果となったことなど、債券需給の軟化を背景に日本債券市場は下落しました。しかし週末にかけては、OPECと主要産油国による原油減産の延長合意が市場予想の範囲内にとどまったことによる失望売りから原油価格が下落したことなどをを受け物価上昇期待が後退したことや、日銀による国債買入れオペなどを背景に、日本債券市場は上昇に転じ、週間では小幅上昇となりました。

長期金利の指標となる10年国債利回りは、19日比でほぼ横ばいの0.042%となりました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 30日 失業率(4月)

など

	2017/5/19	2017/5/26	変化幅
日本10年国債利回り*	0.040%	0.042%	0.002%

※ブルームバーグ・ジェネリック10年国債利回り

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

先週の騰落率

0.02%

先週の相場動向



<期間>2014年3月28日～2017年5月26日



NOMURA-BPI総合	2017/5/19	2017/5/26	騰落率
	379.69	379.76	0.02%

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

NOMURA-BPI総合は、野村証券株式会社が作成している指数で、当該指数に関する一切の知的財産権とその他の権利は野村証券株式会社に帰属しております。また、野村証券株式会社は、当該インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

世界の債券市場

市場の動向

世界の債券市場の代表的な指数であるシティ世界国債インデックスは、19日比円ベースで、0.18%下落しました。

米国債券市場(現地通貨ベース)は、米国株式市場が上昇する中で利回りが上昇(価格は下落)する局面はあったものの、その後公表されたFOMC(米連邦公開市場委員会)議事録の内容を受けて低下し、債券利回りは週間ではほぼ横ばいとなりました。

欧州債券市場(現地通貨ベース)は、原油価格の下落やFOMC議事録公表を受けた米国の債券利回りの低下などを背景に、ドイツ国債利回りは低下しました。

為替は、19日比で円/ドルレートは円高・ドル安、円/ユーロレートは円高・ユーロ安となりました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 30日 米個人所得・個人支出(4月)
- 31日 ユーロ圏CPI(消費者物価指数、5月)
- 6月1日 米ISM製造業景況感指数(5月)
- 2日 米雇用統計(5月)

など

	2017/5/19	2017/5/26	変化幅
米国10年国債利回り*	2.235%	2.247%	0.012%
ドイツ10年国債利回り*	0.368%	0.331%	-0.037%

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

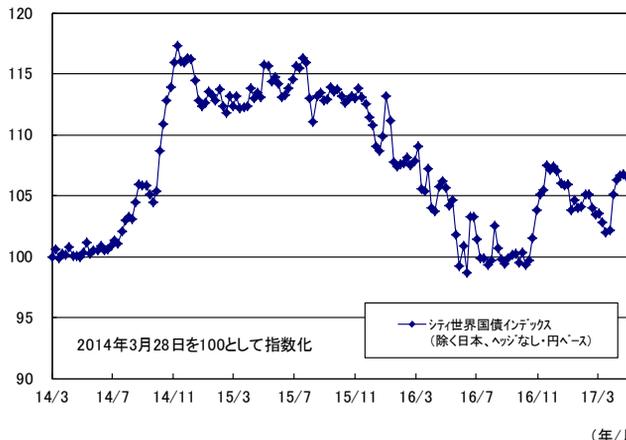
先週の騰落率

-0.18%

先週の相場動向



<期間>2014年3月28日～2017年5月26日



シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)	2017/5/19	2017/5/26	騰落率
	441.33	440.54	-0.18%
円/ドル	111.54円	111.25円	-0.26%
円/ユーロ	124.87円	124.42円	-0.36%

<指数出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成
<為替出所>当該日ロンドン時間16時発表のWMロイターの為替レートを基に野村アセットマネジメント作成

シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCの知的財産であり、指数の算出、数値の公表、利用など指数に関する全ての権利は、Citigroup Index LLCが有しています。

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

※ブルームバーグ・ジェネリック10年国債利回り

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
 ・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。 ・REITとは、不動産投資信託証券を指します。

日本のREIT市場

市場の動向

日本のREIT市場(J-REIT市場)の代表的な指数である東証REIT指数は、19日比で0.11%下落しました。一部の投資家から売りが出たことなどが背景にあります。
 東京カンテイが発表した中古マンション価格推移によると、4月の首都圏中古マンション価格(70㎡あたり)は前月比-0.6%の3,560万円となり、小幅ながら下落しました。

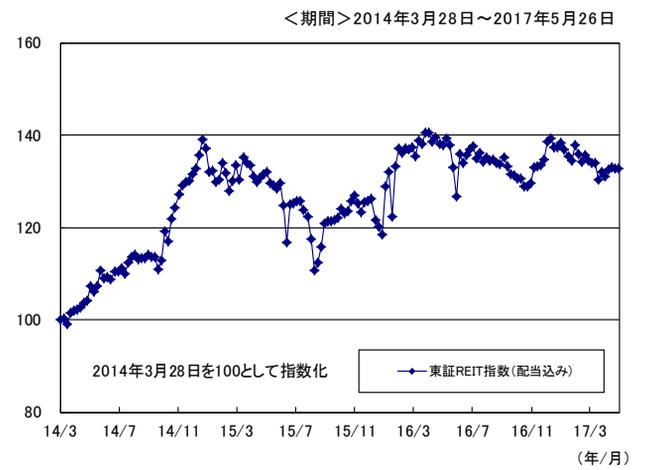
今後発表予定の主な経済指標など

- 30日 失業率(4月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊
 騰落率がマイナスの場合: 😞
 騰落率が横ばいの場合: 😐

先週の騰落率	先週の相場動向
-0.11%	👉👈



東証REIT指数(配当込み)	2017/5/19	2017/5/26	騰落率
	3,278.75	3,275.21	-0.11%

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成
 東証REIT指数の指数値及び東証REIT指数の商標は、株式会社東京証券取引所(以下「東証」といいます。)の知的財産であり、東証REIT指数の算出、指数値の公表、利用など東証REIT指数に関するすべての権利及び東証REIT指数の商標に関するすべての権利は東証が有します。

世界のREIT市場

市場の動向

世界のREIT市場の代表的な指数であるS&P先進国REIT指数は、19日比円ベースで、0.28%上昇しました。
 米国REIT市場(現地通貨ベース)は、4月の米新築住宅販売件数などの住宅関連の経済統計が、前月比で市場予想以上の落ち込みとなりましたが、FOMC議事録の公表を受け米金融政策の正常化が緩やかなペースで進むとの見方が広がったことなどが背景となり、上昇しました。
 欧州REIT市場(現地通貨ベース)は、欧州債券利回りが低下したことなどが背景となり、上昇しました。
 豪州REIT市場(現地通貨ベース)は、豪州株式市場の上昇に連れて、上昇しました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 30日 米個人所得・個人支出(4月)
- 31日 ユーロ圏CPI(5月)
- 6月1日 米ISM製造業景況感指数(5月)
- 2日 米雇用統計(5月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊
 騰落率がマイナスの場合: 😞
 騰落率が横ばいの場合: 😐

先週の騰落率	先週の相場動向
0.28%	😊



S&P先進国REIT指数 (除く日本、配当込み・円ベース)	2017/5/19	2017/5/26	騰落率
	919.21	921.80	0.28%
円/ドル	111.54円	111.25円	-0.26%
円/ユーロ	124.87円	124.42円	-0.36%

<指数出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成
 <為替出所>当該日ロンドン時間16時発表のWMロイターの為替レートを基に野村アセットマネジメント作成

S&P先進国REIT指数はスタンダード&プアーズファイナンシャル サービスーズ エル エル シーの所有する登録商標です。

新興国の株式市場

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。

市場の動向

新興国の株式市場の代表的な指数であるMSCI エマージング・マーケット・インデックスは、19日比円ベースで、1.91%上昇しました。

中国株式市場(現地通貨ベース)は、大手格付機関による中国国債の格下げがあったものの、政府系ファンドによる大型株の買い支え観測などを背景に上昇しました。

ロシア株式市場(現地通貨ベース)は、欧米による経済制裁緩和への期待後退や、原油価格の下落などから下落しました。

ブラジル株式市場(現地通貨ベース)は、政府が景気回復に取り組む姿勢を改めて強調したことや、年金改革への期待などから、上昇しました。

南アフリカ株式市場(現地通貨ベース)は、与党の会合でズマ大統領の退陣について議論されるとの報道が好感されたことなどから上昇しました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 6月1日 中国財新製造業PMI(5月)
- 1日 ロシア製造業PMI(5月)
- 1日 ブラジルGDP(1-3月期)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

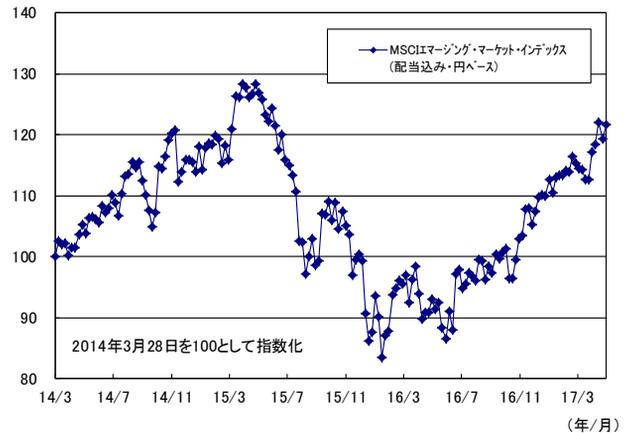
先週の騰落率

1.91%

先週の相場動向



<期間>2014年3月28日～2017年5月26日



MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み・円ベース)	2017/5/19	2017/5/26	騰落率
	1,953.50	1,990.78	1.91%

<出所> FactSetからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCIが開発した指数であり、同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

新興国の債券市場

市場の動向

新興国の債券市場の代表的な指数であるJPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドは、19日比円ベースで、0.89%上昇しました。

南アフリカでは、週末に控える与党の会合でズマ大統領の退陣について議論されると報じられました。また、4月のCPIの前年同月比の数値が前月から低下しました。このような環境下、同国の債券指数は上昇しました。

ロシアでは、週後半に、OPECとロシアなどOPEC非加盟国との間で9か月間の原油減産延長が決定されたものの、市場予想の範囲内の内容にとどまったことによる失望売りなどから、原油価格は下落しました。このような環境下、同国の債券指数は下落しました。

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

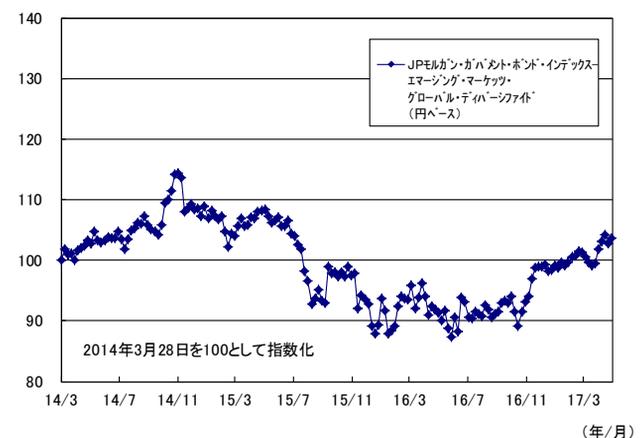
先週の騰落率

0.89%

先週の相場動向



<期間>2014年3月28日～2017年5月26日



JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)	2017/5/19	2017/5/26	騰落率
	261.50	263.82	0.89%

<出所> ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(JP Morgan Government Bond Index-Emerging Markets Global Diversified)は、J.P.Morgan Securities LLCが公表している、現地通貨建てのエマージング・マーケット債を対象としたインデックスであり、その著作権および知的財産権は同社に帰属します。

今後発表予定の主な経済指標など

- 31日 中国製造業PMI(5月)
- 31日 トルコ貿易収支(4月)
- 31日 ブラジル金融政策
- 6月1日 ブラジルGDP(1-3月期)

など

【野村アセットマネジメントからのお知らせ】

■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし、投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価格が変動します。したがって投資家の皆様のご投資された金額を下回り損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧下さい。

■投資信託に係る費用について

2017年5月現在

<p>ご購入時手数料 《上限4.32%(税込み)》</p>	<p>投資家が投資信託のご購入のお申込みをする際に負担する費用です。販売会社が販売に係る費用として受け取ります。手数料率等については、投資信託の販売会社に確認する必要があります。投資信託によっては、換金時(および償還時)に「ご換金時手数料」等がかかる場合もあります。</p>
<p>運用管理費用(信託報酬) 《上限2.1816%(税込み)》</p>	<p>投資家はその投資信託を保有する期間に応じた費用です。委託会社は運用に対する報酬として、受託会社は信託財産の保管・管理の費用として、販売会社は収益分配金や償還金の取扱事務費用や運用報告書の発送費用等として、それぞれ按分して受け取ります。 *一部のファンドについては、運用実績に応じて報酬が別途かかる場合があります。 *ファンド・オブ・ファンズの場合は、一部を除き、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬等が別途かかります。</p>
<p>信託財産留保額 《上限0.5%》</p>	<p>投資家が投資信託をご換金する際等に負担します。投資家の換金等によって信託財産内で発生するコストをその投資家自身が負担する趣旨で設けられています。</p>
<p>その他の費用</p>	<p>上記の他に、「組入価値証券等の売買の際に発生する売買委託手数料」、「ファンドに関する租税」、「監査費用」、「外国での資産の保管等に要する諸費用」等、保有する期間等に応じてご負担いただく費用があります。運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。</p>

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、野村アセットマネジメントが運用するすべての公募投資信託のうち、投資家の皆様にご負担いただく、それぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をご覧下さい。

投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。

商号:野村アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号

加入協会:一般社団法人投資信託協会／一般社団法人日本投資顧問業協会

当資料は、参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載事項は、全て当資料作成時以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。